

平成 22 年度事業報告書

(平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日)

会員の移動状況書

会員種別	員数		増減数
	平成 23 年 2 月 28 日 現在	平成 22 年 2 月 28 日 現在	
名誉会員	54	55	-1
永年会員	261	261	0
正会員	4598	4772	-174
学生会員	920	983	-63
維持会員	238	244	-6
特別会員	628	636	-8
公益会員	448	457	-9
計	7147	7408	-261

① 第 51 回通常総会 (定款第 31 条)

日時 平成 22 年 4 月 16 日
場所 五反田文化会館第一会議室 参加者数 120 名

② 会誌、研究報告及び資料の刊行 (定款第 5 条(1))

- 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
自 平成 22 年 3 月 5 日	2010	3	7600
至 平成 23 年 2 月 5 日	2011	2	7600
- 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
自 平成 22 年 3 月 5 日	59	3	2500
至 平成 23 年 2 月 5 日	60	2	2500
- 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
自 平成 22 年 3 月 10 日	26	3	900
至 平成 23 年 2 月 10 日	27	2	900
- メールマガジンを毎月 1 回発行した (配信数 4000)。
- 「環境分析ガイドブック」を発行した
- 教育用 DVD 並びにビデオシリーズの頒布を行った。

③ 講演会、講習会及び研究会の開催 (定款第 5 条(2))

[研究発表会]

- 第 71 回分析化学討論会
日時 平成 22 年 5 月 15 日～平成 22 年 5 月 16 日
場所 島根大学 参加者数 673 名
- 東京コンファレンス 2010
日時 平成 22 年 9 月 1 日～平成 21 年 9 月 3 日
場所 幕張メッセ国際会議場 参加者数 680 名
- 第 59 年会
日時 平成 22 年 9 月 15 日～平成 22 年 9 月 17 日
場所 東北大学 参加者数 1251 名
- Separation Sciences 2010
日時 平成 22 年 8 月 31 日～平成 22 年 9 月 1 日
場所 幕張メッセ国際会議場 参加者数 187 名

[講習会]

- 第 24 回分析化学基礎セミナー

- 日時 平成 22 年 6 月 9 日
場所 ㈱日立ハイテクノロジーズ 参加者数 80 名
- 第 7 回「分析化学における不確かさ研修プログラム」
日時 平成 22 年 6 月 24 日～平成 22 年 6 月 25 日
場所 日本電気計器検定所本社 参加者数 28 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 12 回金属分析技術セミナー」
日時 平成 22 年 7 月 15 日～平成 22 年 7 月 16 日
場所 弘済会館 参加者数 32 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 9 回土壌分析技術セミナー」
日時 平成 22 年 7 月 29 日～平成 22 年 7 月 30 日
場所 弘済会館 参加者数 22 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 11 回ダイオキシン類分析技術セミナー」
日時 平成 22 年 10 月 28 日～平成 22 年 10 月 29 日
場所 弘済会館 参加者数 24 名
- 第 25 回分析化学基礎セミナー
日時 平成 22 年 10 月 22 日
場所 ㈱日本教育会館 参加者数 31 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 14 回水中の微量金属分析」
日時 平成 22 年 10 月 15 日, 平成 23 年 1 月 21 日
場所 飯田橋レインボービル 参加者数 15 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 9 回セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー」
日時 平成 22 年 10 月 27 日～平成 22 年 10 月 28 日
場所 日本分析化学会 参加者数 24 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 7 回プラスチック中有害金属成分の化学分析技術セミナー (有害物質規制/RoHS 指令対応)」
日時 平成 22 年 11 月 4 日～平成 22 年 11 月 5 日
場所 明治大学駿河台キャンパス 参加者数 21 名
- 第 8 回「分析化学における不確かさ研修プログラム」
日時 平成 22 年 12 月 2 日～平成 22 年 12 月 3 日
場所 日本電気計器検定所本社 参加者数 24 名
- 第 26 回分析化学基礎セミナー
日時 平成 23 年 2 月 16 日
場所 大田区産業プラザ 参加者数 40 名
- 分析信頼性実務者レベル講習会第 2 回「食品分析技術セミナー」
日時 平成 23 年 2 月 28 日
場所 子供の城 参加者数 46 名

④ 調査、研究及び建議 (定款第 5 条(3))

[JIS]

- ㈱日本規格協会の委託に基づき、JIS K0050「化学分析方法通則」については平成 22 年 5 月に改正原案作成を完了し、経済産業省の審議を経て、平成 23 年 2 月 21 日に改正版が発行された。
- JIS K0303「排ガス中のホルムアルデヒド分析方法」については平成 23 年 1 月に改正原案を作成し、同 2 月に㈱日本規格協会に提出した。

[技能試験]

- 事業所を対象とした技能試験を次のとおり実施し、結果に基づく「技能試験成果報告書」を公刊した。
- ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 4 回トレーサビリティと不確かさ理解のための分析技能試験」 参加事業所数 53
日時 平成 22 年 3 月 31 日～
- ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 12 回ダイオキシン類分析 (ばいじん)」 参加事業所数 91
日時 平成 22 年 7 月 9 日～
- ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 7 回食品成分の分析」 参加事業所数 61
日時 平成 22 年 9 月 30 日～

- ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 7 回プラスチック中有害金属成分の分析（有害物質規制/RoHS 指令対応）」参加事業所数 103

日時 平成 22 年 11 月 5 日～

- 水中の残留農薬分析（日本環境測定分析協会との共同主催）

日時 平成 22 年 2 月 21 日～ 参加事業所数 280

[標準物質]

これまで開発してきた各種標準物質の保管、管理並びに社会への供給活動を継続して実施した。

[関係団体との協力]

- 関連学術団体等が主催する研究会等に次のとおり協力した。

国際会議：平成 22 年 12 月 15 日～平成 22 年 12 月 20 日

2010 環太平洋国際化学会議（後援）ほか 7 件

展示会：平成 22 年 9 月 1 日 2010 分析展（後援）ほか 1 件

討論会並びに講習会等：平成 22 年 3 月 8 日 SPring-8 安全安心のための分析評価研究会（第 2 回）（協賛）ほか 114 件

- 次の諸団体に参画し、種々の調査、建議に協力した。

日本学術会議

日本化学連合

化学関係学協会連合協議会

JABEE/化学分野 JABEE 委員会

化学情報協会

(財)化学技術戦略推進機構

グリーンサステイナブルケミストリーネットワーク

日本工学会

標準物質協議会

ASIANALYSIS 国際諮問委員会

Asian Analytical Chemistry Network

- 次の団体に委員を派遣して各種規格の立案等に協力した。

(財)日本規格協会

(社)日本化学工業協会

(独)産総研計量標準管理センター

(社)日本試験協会

(社)日本セラミックス協会

(社)日本環境測定分析協会

(財)日本適合性認定協会

(社)日本分析機器工業会

⑤ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 5 条(4)）

- 2010 年度学会賞を次のとおり授与した。

大澤 雅俊君「表面増強赤外分光の基礎開発と表面分析への応用展開」

加納 健司君「酸化還元酵素と電極反応の解析に基礎をおく生物電気分析化学の展開」

山口 政俊君「生体成分の HPLC-蛍光・化学発光誘導体化法の開発と医療分析への展開」

- 2010 年度学会功労賞を次のとおり授与した。

上館 民夫君「リポソームの化学・生物発光への応用と学会への貢献」

功刀 正行君「各種環境分析法の開発と環境動態解析への応用及び学会への貢献」

斎藤 紘一君「金属錯体の液体クロマトグラフィー基礎研究と分析化学教育及び学会への貢献」

澤田 清君「イオン対抽出機構の解明と環境分析への応用及び学会への貢献」

本仲 純子君「生体物質測定用新規酵素センサーの開発と学会への貢献」

- 2010 年度技術功績賞を次のとおり授与した。

紀本 岳志君「地球・環境科学における化学成分の連続測定分析法の開発」

長江 徳和君「高速液体クロマトグラフィーにおけるシリカ系逆相固定相の保持挙動の解明と高

性能充填剤の開発」

脇田 慎一君「マイクロ化学センサー・チップの開発と応用に関する研究」

- 2010 年度奨励賞を次のとおり授与した。

亀田 直弘君「イオン、分子、高分子に対するテラーメイド型超分子ホストの開発」

北川 文彦君「高性能マイクロスケール電気泳動分析システムの開発」

下条晃司郎君「イオン液体を利用する高度抽出分離分析法の開発と機能性反応場への展開」

藤原 一彦君「界面およびナノ粒子表面を計測する分光分析手法の開発とその応用」

吉本敬太郎君「生体高分子構造の空間制御に基づく高性能診断法の開発」

- 2010 年度先端分析技術賞を次のとおり授与した。

JAIMA 機器開発賞

菊間 淳・松野信也・松井久仁雄・小川晃博各氏

「水熱反応過程の in-situ X 線計測技術の開発」

吉川 正信 「紫外励起近接場ラマン分光装置の開発」

CERI 評価技術賞

三宅 司郎氏「モノクローナル抗体を利用した農薬・カビ毒など低分子性物質の分析手法の開発」

- 2010 年度有功賞を次のとおり授与した（敬称略）。

平野 光和 西村 敬二 一瀬 栄 笹木 章

菅野 幸子 宇留島弘徳 三浦 利明 佐藤 清治

山口 吉弘 原田 正義 西澤 良一 挾間 義邦

市毛 和夫 筒田 恒治 山中 実弘 丹波 和幸

山田 政行 形見 武男 西川 治光 佐久間一典

篠藤 豊 寺岡 良幸 椎名 紀悦 工 隆茂

松丸 直人 高取 靖弘 松田 忠次 牧田 正弘

幸田 栄二 伊藤 晃司 芝 賢司 竹下 薫

飯牟礼 進 釜谷 勝清 小谷 好子 中谷 武彦

- 2010 年「分析化学」論文賞を次のとおり授与した。

論文題名「放射光軟 X 線と光電子顕微鏡を組み合わせたナノメートルスケールの化学結合状態マッピング」

著者名：石田智治・秋吉孝則（JFE スチール研究所）

掲載ページ：「分析化学」第 59 巻第 10 号，911～915 ページ

- 他機関による表彰及び研究助成に対して、会員を候補者として推薦した。

⑥ その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第 5 条(5)）

[分析士認証制度]

本会に分析士認証制度を新たに設け、試験等を通じて「液体クロマトグラフィー分析士初段」として 287 人の登録を得た。

[広報]

本会の活動を記者会見、展示、小冊子の発行ならびにホームページを通して広報した。

[若手交流会]

分析化学討論会および年会の若手企画を後援した。また討論会後に定例の若手交流会総会（5 月 16 日～17 日松江アーバンホテル、招待講演 2 件）を開催した。

[ICAS2011 組織委員会]

実行委員会（第 3 回～第 8 回、京都）を開催し、会議の具体的内容について検討・決定を行った。具体的には、①シンポジウムおよび一般セッションの決定、招待講演者の決定、事前プログラムの決定、講演日程の決定（プログラム部会）、②予算案作成、募金計画作成・実施、各種補助金等の申請（財務・募金部会）、③ホームページ（<http://www.icas2011.com>）の作成・公開（広報部会）、④会場計画の作成・決定（会場部会）、⑤展示会の計画・募集（展示部会）、⑥広告、配布物の計画・決定（総務部会）、⑦懇

親会、カンパニービジット等の立案(行事部会)、⑧ Anal. Sci. 誌への投稿依頼等(出版部会)、⑨公開講座の内容決定(公開講座部会)等である。第2回国際諮問委員会/第3回組織委員会(9月、東北大学)を開催した。

[AACN]

Asian Analytical Chemistry Networkに参加し、そのホームページを運用した。

[研究懇談会]

研究懇談会活動を次のように行った。

1) 有機微量分析研究懇談会

委員会を2回。第77回有機微量分析研究懇談会シンポジウムを5月13日、14日、京都大学百周年時計台記念館で開催。(計測自動制御学会・力学量計測部会と共催、日本分析化学会近畿支部、日本化学会、日本薬学会近畿支部協賛)で、特別講演3件、口頭発表7件、ポスター発表20件、その他各委員会報告および技術研修会等を行った。東京コンファレンスで分析技術者講座を主催し(9月3日幕張メッセ)、講演会(第59年会9月15日、東北大学川内北キャンパス、招待講演1件)を開催したほか、会報12号を発行した。

2) ガスクロマトグラフィー研究懇談会

開催数:7回(第304~310回、特別講演会、東京コンファレンスの講習会開催、見学会、Separation Sciences 2010講演、分析年会での講演会を含む)。又、第16回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会(8月31日、9月1、2日首都大学東京)を開催した。日中韓シンポジウム(武漢)の事務局を務めAnal.Sci.にシンポジウム特集を企画した。単行本「役に立つガスクロ分析」を監修し7月に発刊した。

3) 高分子分析研究懇談会

開催数:4回(第352~355回)。又、第40回・第41回高分子分析技術講習会(工学院大学新宿校舎)、懇談会設立50周年記念事業「高分子分析及びキャラクタリゼーションに関する国際会議」兼「第15回高分子分析討論会」を(12月8日~10日、名古屋国際会議場)で開催した。

4) X線分析研究懇談会

開催数:例会5回(第234~238回)。又、「X線分析の進歩」第41集をアグネ技術センターより出版したほか、第17回X線分析講習会(7月7~9日、東京理科大学)、第46回X線分析討論会(10月22~23日、広島県情報プラザ)を共催あるいは主催した。

5) 分析試薬研究懇談会

開催数:1回。第59年会において、分析試薬研究懇談会(9月15日、東北大学、講演2件)を開催した。また、2010環太平洋国際化学会議(米国ハワイ)でのシンポジウムおよび第6回ホスト・ゲスト化学シンポジウムの共催を行った。

6) 溶液界面研究懇談会

開催数:1回。北海道大学で開催された第59年会の「界面・微粒子」セッションの中で、2件の講演(9月15日)を行った。また、分析化学会年会における界面に関するセッションの維持を図った。研究懇談会の活動に関するメール審議を行い、次年度の懇談会運営体制を決定した。

7) 液体クロマトグラフィー研究懇談会

開催数:9回(第228~236回)。特別講演会見学会1回。又、LC-DAYS 2010(11月25~26日、ラホール修善寺)を開催した。

8) 化学センサー研究懇談会

研究懇談会講演会(9月15日、日本分析化学会第59年会、東北大学にて講演2件)を開催した。また、Pacifichem 2010でセンサーのシンポジウムを3日間行った。

9) 電気泳動分析研究懇談会

研究懇談会講演会(9月15日、日本分析化学会第59年会「東北大学」にて講演1件)および第30回キャピラ

リー電気泳動シンポジウム(11月15~17日、長良川国際会議場)を開催した。

10) イオンクロマトグラフィー研究懇談会

Separation Science 2010(9月、幕張)、イオンクロマトグラフィー講演会(9月、分析化学会第59年会と共催、東北大学)、中日韓分析化学シンポジウム(11月、GC、HPLC、FIA各研究懇談会と共催、中国・武漢)、第4回日中韓合同イオン分析シンポジウム(12月、岐阜)を開催した。この他に運営委員会を計3回開催した。また「分析化学教育用ビデオ」の内容改訂(DVD化)の取り組みを進めた。

11) フローインジェクション分析研究懇談会

講演会を4回(16th ICFA 2010(4月25~30日、タイ)、Separation Sciences 2010(8月31日・9月1日、幕張メッセ)、年会開催時(9月15日、東北大学)、Pacifichem 2010(12月19・20日、ハワイ))開催、講習会を1回(8月31日、幕張メッセ)開催したほか、Journal of Flow Injection Analysis 誌の発行(27巻)のための編集委員会を1回(5月14日、島根)、また褒賞委員会を1回(9月15日、東北大学)開催した。

12) 環境分析研究懇談会

講演会を2回(第16回を9月15日第59年会において、第17回を12月1日群馬大学において開催)、運営委員会を1回開催した。メーリングリストにおいて関連情報を会員各位に適宜提供した。また、2010 CJK Symposium on Environmental Analytical Chemistry(武漢、中国)(11月1、2日)の日本側懇談会メンバーに参加した。

13) 表示・起源分析技術研究懇談会

講演会を2回(7月1~2日首都大学東京、11月30日タワーホール船堀)を開催した。9月15日第59年会にて講演会を開催した。運営委員会を2回開催した。単行本「食品表示を裏づける分析技術」を11月に発刊した。

[支部]

支部活動を次のように行った。

[北海道支部]

1. 役員を選任

支 部 長	伊藤八十男
副支部長	大澤 雅俊(次期支部長) 黒澤 隆夫
参 与	菖蒲 明己 伊藤 秀明 大下 敏夫
	小澤 幸男 尾谷 賢 鍵政 秀一 片山 則昭
	上館 民夫 黒田 一寛 佐々木陽一 多賀 光彦
	藤間 貞彦 富田 勤 長井 忠則 中野 益男
	那須 淑子 西口 信弘 西野 淳二 乗木新一郎
	長谷部 清 松永 勝彦 松久 喜一 三浦 敏明
	横澤 龍朗 吉田 仁志
監 査	齋藤 健 嶋津 克明
庶務幹事	平間 祐志 中田 耕
会計幹事	鈴木 智宏 山田 幸司
幹 事	池田 俊朗 石坂 昌司 石田 晃彦
	板橋 豊 伊藤 純一 伊藤 慎二 上野 貢生
	宇都 正幸 奥山 祐治 嶋崎 悌司 片岡 正光
	加藤 昌子 河崎 孝男 菅 正彦 喜多村 昇
	工藤 英博 久万 健志 蔵崎 正明 坂入 正敏
	佐々木胤則 佐藤 正知 佐藤千鶴子 神 和夫
	高木 英利 高橋 徹 高橋 英明 田中 俊逸
	田邊 博義 谷 博文 田原るり子 千葉 真弘
	坪井 泰之 敦賀 昇 富田 恵一 豊田 和弘
	中谷 暢丈 永洞真一郎 中村 博 西村 一彦
	古月 文志 福嶋 正巳 藤井 清志 藤吉 亮子
	古崎 陸 南 尚嗣 諸角 達也 森田みゆき
	吉田 登 吉村 昭毅

2. 研究発表会

1) 夏季研究発表会(共催):7月24日、函館工業高等専門学校で開催、一般講演117件、特別講演2件、懇親会を行った(参加者201名)。

2) 化学教育研究協議会(共催):11月6日、北海道大学

大学院地球環境科学研究院で開催、講演1件、分析化学若手教育研究者による話題提供、自由討論、懇親会を行った(参加者59名)。

3) 冬季研究発表会(共催):2月1・2日、北海道大学学術交流会館で開催、研究発表171件、特別講演2件、懇親会を行った(参加者389名)。

3. セミナー

1) 第26回分析化学緑陰セミナー:7月3・4日、札幌市青少年山の家にて開催、講演4件、ポスター講演13件、懇親会を行った(参加者58名)。

2) 公開セミナー:11月19日、北見工業大学で開催、講演2件、懇親会を行った(参加者85名)。

3) 第46回氷雪セミナー:1月8・9日、かんぼの宿小樽で開催、講演4件、懇親会を行った(参加者35名)。

【東北支部】

1. 役員を選任

支部長	安齊 順一
次期支部長	尾形 健明
副支部長	糠塚いそし 福島美智子
参 与	秋葉 健一 阿部 重喜 石井 一
	石田 良栄 宇野原信行 大類 洋 荻野 博
長	哲郎 小田嶋次勝 後藤 順一 佐藤 允美
鈴木 信男	南原 利夫 広川吉之助 目黒 熙
山崎 慎一	四ツ柳隆夫
監 事	小谷 卓 末永 智一
庶務幹事	後藤 貴章
会計幹事	平野 愛弓
在仙常任幹事	赤坂 和昭 芦野 哲也 壹岐 伸彦
	井上 亮 井原 忠雄 猿渡 英之 渋川 博彦
	中尾 雅彦 西澤 精一 橋本 幹雄 星 友典
	三日市 充 山口 央 山下 幸和 和久井喜人
地区常任幹事	石濱 泰 岩田 吉弘 遠藤 昌敏
	押手 茂克 菊池 洋一 佐藤 健二 高貝 慶隆
	照井 教文 中村 重人 糠塚いそし 平山 和雄
	藤原 一彦 細野 長悦 水口 仁志 渡辺 忠一
幹 事	伊藤 徹二 大江 知行 大関 邦夫
	小川 信明 彼谷 邦光 北爪 英一 久保 拓也
	斎藤 紘一 佐藤 洋 珠久 仁 鈴木 敏重
	玉木 洋一 寺前 紀夫 西澤 松彦 福村 裕史
	星野 仁 細矢 憲 松永 英之 眞野 成康
	村本 光二 我妻 和明

2. 研究発表会

1) 平成22年度化学系学協会東北大会(共催):9月25~26日、岩手大学工学部で開催。環境と分析化学のセッションにて「第6回 環境と分析化学のセミナー」を開催した。

3. 講習会

1) 分析化学基礎技術講習会2010(共催):8月4,5日、(独)産業技術総合研究所東北センターで開催。

4. セミナー

1) 分離機能とセンシング機能の化学セミナー2010(主催):3月6日(土)、東北大学金属材料研究所にて開催、依頼講演2件を行った。

2) 第26回無機・分析化学コロキウム(共催):5月28,29日、東北大学川渡共同セミナーセンターにて開催、招待講演3件、依頼講演7件を行った。

3) 平成22年東北分析若手交流会(主催):7月2,3日、秋田大学VBL大セミナー室にて開催、依頼講演4件を行った。

4) 仙台地区講演会(主催):2月26日、東北大学大学院理学研究科にて開催、講演1件を行った。

5) 第6回 環境と分析化学のセミナー(主催):9月26日、岩手大学工学部にて開催、招待講演2件、依頼講演2件を行った。

6) ICP発光分光分析セミナー(共催):10月22日、岩手県工業技術センターにて開催、講演4件を行った。

7) 福島いわき地区講演会(主催):2月26日、いわき明星大学薬学棟にて開催、講演3件を行った。

【関東支部】

1. 役員を選任

支部長	菅原 正雄
副支部長	角田 欣一(次期支部長)
	前田 瑞夫 鈴木 康志
参 与	赤岩 英夫 今枝 一男 梅澤 喜夫
	小熊 幸一 大橋弘三郎 楠 文代 合志 陽一
	酒井 馨 澤田 清 洪川 雅美 杉谷 嘉則
	高田 芳矩 高村喜代子 田中 龍彦 中澤 裕之
	中埜 邦夫 中村 洋 二瓶 好正 平井 昭司
	不破敬一郎 藤原 鎮男 藤原祺多夫 保母 敏行
	矢野 良子 山崎 素直 山根 兵 山本 勝巳
	綿拔 邦彦

監 事	川田 哲 本田 俊哉
常任幹事	伊藤 克敏 伊藤 里恵 梅香 明子
	岡田 哲男 小田中芳次 加藤 尚志 金子 毅
	久留須一彦 齋藤 伸吾 敷野 修 谷 和江
	谷合 哲行 津越 敬寿 友田浩一朗 豊田 太郎
	永山 敏廣 野口 康成 野呂 純二 長谷川 健
	濱田 尚樹 林 英男 柳田 顕郎 山本 博之
	脇坂 達司 和久井隆行 渡辺 幸久
支部幹事	浅見 貴幸 江坂 文孝 大石 昌弘
	金橋 康二 佐藤 守俊 鹿籠 康行 清水 克敏
	鈴木 康弘 高橋 和也 中島 秀 西垣 敦子
	橋本 伸哉 橋本 剛 森 勝伸 吉田 達成

2. 研究発表会

第24回新潟地区部会研究発表会:9月10日、新潟テルサで開催、特別講演2件、一般講演6件、情報交換会を行った。

3. 講習会

1) 第51回機器分析講習会(日本分析機器工業会後援):第1コース、6月24~25日、第2コース、7月7~9日、第3コース、7月16日、エスアイアイ・ナノテクノロジー、東京理科大学、島津製作所で開催した。

2) 第16・17回環境分析基礎講座:8月25~27日、東京理科大学、2月3~4日、パーキンエルマージャパンで各々開催した。

4. 講演会

1) 関東支部懇話会:3月19日、ゆうほうと五反田で開催、講演5件及び交流会を行った。

2) 山梨地区講演会:7月6日、山梨大学工学部で開催、講演2件、および情報交換会を行った。

3) 第7回茨城地区分析技術交流会:10月29日、テクノ交流会館リコッティで開催、特別講演3件及びポスターセッションを行った。

4) 栃木地区講演会:11月12日、宇都宮大学工学部で開催、講演4件、および情報交換会を行った。

5. セミナー

1) 平成22年度分析化学会関東支部若手交流会:7月2日~7月3日、国民宿舎サンレイク草木で開催した。

2) 新年交流会:1月7日、「ゆうほうと」において開催。

6. 各県分析化学交流会

1) 山梨県分析化学交流会設立総会:7月6日、山梨大学厚生会館にて開催(参加者22名)

2) 第2回千葉県分析化学交流会:5月18日、アサヒビール研究開発センター及び茨城工場において開催(参加者35名)

3) 第3回千葉県分析化学交流会:7月27日、千葉大学において開催(参加者41名)

4) 第4回千葉県分析化学交流会:12月27日、オルガノ(株)において開催(参加者33名)

7. 支部ニュースの発行

関東支部ニュース第21号を発行した。

【中部支部】

1. 役員の変更

支部長	宇野 文二				
次期支部長	北川 邦行				
副支部長	樋上 照男	宮部 寛志			
顧問	石井 大道	坂谷 芳京	河口 廣司		
木羽 敏泰	小辻 奎也	佐々木与志実	鈴木 正巳		
田中 元治	柘植 新	寺田喜久雄	野村 昇		
村田 旭	山寺 秀雄	三輪 智夫			
参与	池田 篤治	上田 一正	上田 穰一		
太田 清久	酒井 忠雄	田口 茂	永長 幸雄		
中村 俊夫	野村 俊明	原 稔	平出 正孝		
舟橋 重信	本浄 高治	山田 真吉	山田 碩道		
監事	藤本 忠蔵	湯地 昭夫			
庶務幹事	江坂 幸宏				
会計幹事	手嶋 紀雄				
常任幹事	石田 康行	大谷 肇	片野 肇		
金子 聡	倉光 英樹	栗原 誠			
田中 啓之	柘植 明	渡慶次 学	鳥羽 陽		
幹事	井村 久則	梅村 知也	大野 典子		
大橋 芳明	奥山 修司	小澤 秀明	小谷 明		
香川 信之	形見 武男	勝又 英之	儀賀 義勝		
北川 慎也	北出 和久	国本 浩喜	熊澤 茂則		
小泉 貞之	小玉 修嗣	小森 康生	齋藤 徹		
篠原 直行	妹尾 健吾	高木 秀夫	滝沢 徹		
竹内 豊英	田中 智一	遠田 浩司	中園 秀己		
二村 和孝	丹羽 啓誌	服部 敏明	深谷 秀貴		
細川 智司	牧野 浩	元森 涉	森川 久		
柳沢 雅明	山形 茂	リムリーワ			

2. 研究発表会

1) 第41回中部化学関係学協会支部連合秋季大会：11月6～7日、豊橋技術科学大学で開催、特別討論会講演10件（招待講演1件、依頼講演9件）、一般講演20件を行った（参加者：約40名）。

2) 高分子分析及びキャラクタリゼーションに関する国際会議：12月8～10日、名古屋国際会議場で開催、招待講演8件を含む約100件の発表を行った（参加者約300名）。

3. 講演会

1) 北陸地区講演会：7月2日、富山大学理学部多目的ホールで開催、講演2件を行った（参加者107名）。

2) 岐阜地区講演会：9月3日、じゅうろくプラザで開催、講演8件を行った（参加者24名）。

3) 愛知地区講演会：10月8日、中部大学リサーチセンターで開催、講演2件を行った（参加者45名）。

4. 講習会

1) 第20回基礎及び最新の分析化学講習会：10月18～19日、名古屋工業大学で開催、講義10件と同大学大型設備基盤センター見学会を行った（参加者97名）。

5. セミナー

1) 第29回分析化学中部夏期セミナー：8月18～19日、リトリートたくらで開催、招待講演2件、新製品紹介講演2件、ポスター発表67件を行った（参加者120名）。

2) 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第10回高山フォーラム：11月12～13日、高山市図書館、お宿「山久」で開催、依頼講演2件、ポスター発表49件を行った（参加者69名）。

6. 各県分析化学交流会

1) 第2回岐阜県分析化学交流会：9月3日、じゅうろくプラザにおいて開催（参加者18名）

2) 第3回岐阜県分析化学交流会：1月7日、じゅうろくプラザにおいて開催（参加者16名）

【近畿支部】

支部長	荒川 隆一
次期支部長	萩中 淳
前支部長	澁谷 康彦
副支部長	大塚 利行 齊籐 恵逸

監事	紀本 岳志	尾崎 幸洋			
庶務幹事	前田 耕治	辻 幸一			
会計幹事	中口 讓	井上 則子			
参与	池田 重良	市村 彰男	宇野 豊三		
大井 尚文	岡 正太郎	小川禎一郎	木原 壯林		
木村 優	日下 讓	小島 次雄	佐伯 正夫		
佐藤 昌憲	庄野 利之	千田 貢	滝山 一善		
田中 信男	田中 久	田中 稔	千熊 正彦		
辻 治雄	寺部 茂	中川 照眞	中原 武利		
原 正	姫野 貞之	藤永太郎	藤原 英明		
穂積啓一郎	堀 智孝	増田 嘉孝	松井 正和		
松下 隆之	八尾 俊男	渡辺 巖	渡會 仁		
常任幹事	上原 章寛	宇田 亮子	岡林 義人		
川崎 英也	北川 文彦	小池 亮	椎木 弘		
杉原 崇康	鈴江 崇彦	鈴木 茂生	茶山 健二		
塚越 一彦	西 直哉	前田 拓巳	向井 浩		
森内 隆代					
幹事	足立 吟也	池川 繁男	石井 裕子		
石田 英之	今北 毅	岩月 聡史	岩本 仁志		
上田 啓太	内原 博	鶴藤 雅裕	梅谷 重夫		
越後谷みどり	大石 晴樹	大内 幹雄	大神 泰孝		
大塚 浩二	岡本 篤彦	岡本 昌彦	小久見善八		
尾関 徹	小堤 和彦	小山 宗孝	垣内 隆		
槽野 潤	加納 健司	柄谷 肇	河合 潤		
河田 聡	河野 宏彰	菊地 和也	岸本 芳久		
喜多 純一	北出 達也	北山 辰樹	木村 恵一		
久保 塾公二	熊谷 哲	栗山 尚浩	黒田 義弘		
小畑 俊嗣	小林 典裕	才原 康弘	坂本 英文		
佐々木隆之	下野 辰久	下山 昌彦	白井 理		
白石 晴樹	末吉 健志	杉山 雅人	杉山 裕子		
須志田一義	諏訪 雅頼	瀬渡 長武	宗林 由樹		
高川 悌二	高木 達也	高橋 弘樹	竹田さほり		
谷口 一雄	塚原 敬一	津田 郁子	都築 英明		
角井 伸次	壺井 基裕	津村ゆかり	寺田 靖子		
遠山 恵夫	土井 光暢	土江 秀和	長岡 勉		
中島 久子	中西 和樹	中林 安雄	中山 茂吉		
西岡 洋	西野 智昭	西埜 誠	野崎 敏則		
野村 聡	則末 和宏	濱地 格	張野 宏也		
東 昇	久本 秀明	福士 恵一	藤居 義和		
藤田 芳一	藤嶽 暢英	藤森 啓一	藤原 学		
堀 正典	前田 初男	町田 佳男	松尾 修司		
松田十四夫	松村 竹子	丸尾 雅啓	三木功次郎		
水谷 文雄	三田村邦子	三戸彩絵子	村井 重夫		
村上 正裕	村松 康司	室谷 正彰	森田 尚文		
守安 正恭	矢坂 裕太	矢嶋 撰子	安川 智之		
山内 雄二	山垣 亮	山口 敬子	山田 悦		
山田 隆	山田 秀和	山本 雅博	弓削 是貴		
横井 邦彦	吉田 裕美	脇田 慎一			

2. 講演会

1) 近畿分析技術研究懇話会第13回講演会（共催）：3月19日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。

2) 第1回支部講演会：4月9日、大阪科学技術センターで開催、講演4件を行った。

3) 第30回石橋雅義先生記念講演会（共催）：4月28日、京都大学百周年時計台記念館で開催、講演2件を行った。

4) 第2回支部講演会：12月10日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。

5) 第6回近畿分析技術研究奨励賞受賞講演会（共催）：1月14日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。

3. 講習会

1) 第7回基礎分析化学講習会：6月19日、同志社大学京田辺キャンパスで開催、講義を行った（受講者51名）。

2) 第57回機器による分析化学講習会：7月22, 23日、

京都大学吉田キャンパス、吉田南キャンパスで開催、実習7件を行った(受講者53名)。

- 3) 第1回基礎分析化学実習:10月22日, 紀本電子工業(株)で開催, 講義, 実習を行った(受講者13名)。
 - 4) 第2回基礎分析化学実習:11月19日, (株)堀場製作所分析アプリケーションセンターで開催, 講義, 実習を行った(受講者12名)。
 - 5) 第3回基礎分析化学実習:12月11日, 京都大学化学研究所で開催, 講義, 実習を行った(受講者18名)。
 - 6) 第4回基礎分析化学実習:1月19日, (株)ジェイ・サイエンス・ラボで開催, 講義, 実習を行った(受講者7名)。
4. セミナー
- 1) 第1回提案公募型セミナー:1月22日, 甲南大学で開催, 講演3件を行った(受講者29名)。
 - 2) 第2回提案公募型セミナー:2月3日, けいはんなプラザで開催, 講演3件, 討論を行った(受講者24名)。
 - 3) 第4回平成夏期セミナー:8月9~11日, 羽衣青少年センターで開催, 講演7件, ポスターセッション, 見学会を行った(参加者58名)。
5. 支部ニュースを4回発行した。

【中国四国支部】

1. 役員を選任

支部長	中野 恵文				
次期支部長	升島 努				
副支部長	藤原 薫				
副支部長・事務局長	藤原 照文				
支部参与	池田 早苗	今井 嘉彦	岩知道 正		
	大島 光子	小倉興太郎	木ト 光夫	木曾 義之	
	熊丸 尚宏	下村 滋	出口 正一	林 康久	
	平田 静子	真鍋 敬	宮田 晴夫	本仲 純子	
	本水 昌二	森田 秀芳	山崎 恒博		
支部監事	竹味 弘勝	和田 修治			
庶務幹事	岡本 泰明	清家 泰	田中 俊行		
	塚原 聡	水野 初			
会計幹事	伊藤 一明	竹田 一彦			
常任幹事	石井 孝浩	泉 雅典	今井 昭二		
	上田 博文	大中道俊亮	奥村 稔	勝 孝	
	菊地 正	北出 哲朗	島田 健	善木 道雄	
	大楽 正則	田頭 昭二	高柳 俊夫	武居 尚英	
	田中 一彦	田中 秀治	徳永 裕司	中山 雅晴	
	名郷 洋信	廣川 健	北條 正司	升田 貞和	
	森谷 好光	山岡 和則	吉屋 晴夫	若林 茂夫	
支部幹事	浅野 比	受田 浩之	尾上 晃一		
	川口 浩	小松原恒生	佐竹 弘	清 悦雄	
	谷村 俊史	千葉 潔	常定 健	鶴田 泰人	
	永阪 文惣	長野 博紀	西 博行	西本 潤	
	布川 清一	服部喜久男	早川慎二郎	樋口 徹憲	
	樋口 浩一	藤原 勇	前田 道男	村上 良子	
	藪谷 智規	山崎 重雄	山下 浩	吉本 誠	
	横田 宣夫	横山 崇			

2. 研究発表会

- 1) 第17回クロマトグラフィー討論会(共催)6月3~5日, 広島県情報プラザ(広島市)で開催, ワークショップA, B講演計6件, 依頼講演3件, 一般講演43件, 技術セミナー2件, ランチョンセミナー2件および情報交換会を行った(ワークショップ一般参加者50名, シンポジウム一般参加者118名)。
- 2) 第46回X線分析討論会(共催)10月22・23日, 広島県情報プラザ 多目的ホール(広島市)で開催, 講演件数104件および情報交換会を行った(参加者147名)。
- 3) 第8回化学イノベーションシンポジウム(後援)10月23日, 広島県民文化センター(広島市)で開催, 講演5件を行った(参加者224名)。
- 4) 第29回溶媒抽出討論会(後援)11月26・27日, 広島大学学生会館2階 レセプションホール(東広島市)

で開催, 特別講演2件, 一般発表44件(口頭18件, ポスター26件)および情報交換会を行った(参加者82名)。

- 5) 第7回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム(共催)12月4・5日, 広島大学学生会館(東広島市)で開催, 招待講演2件, 一般口頭発表22件および情報交換会を行った(参加者113名)
3. 講演会
- 1) 中国四国支部分析化学講演会:3月9日, 岡山大学理学部21講義室(岡山市)で開催, 講演4件および情報交換会を行った(参加者35名)。
 - 2) 鳥取地区講演会(鳥取総合分析研究懇談会と共催):7月3日(土), 鳥取大学地域学部大会議室にて開催, 講演3件および情報交換会を行った(参加者53名)。
 - 3) 山口地区講演会(山口機器分析研究会と共催):11月19日, 山口大学人文学部講義棟大講義室(山口市)で開催, 講演2件および情報交換会を行った(参加者91名)。
 - 4) 周南地区講演会(周南地区コンビナート分析研究会と共催):12月3日, 徳曹会館(周南市)で開催, 講演3件および情報交換会を行った(参加者60名)。
 - 5) 高知地区講演会(高知地区分析技術懇談会と共催):12月11日, 高知大学総合研究棟2F会議室1で開催, 講演2件および情報交換会を行った(参加者約30名)。
 - 6) 鳥取地区講演会(鳥取総合分析研究懇談会と共催):1月8日, 鳥取大学医学部アレスコ棟211講義室で開催, 講演2件および情報交換会を行った(参加者55名)。
 - 7) 徳島地区講演会(徳島地区分析技術研究会と共催):2月3日, 徳島大学工業会館で開催, 講演3件および情報交換会を行った(参加者69名)。
 - 8) 鳥根地区講演会(鳥根環境分析化学・陸水化学懇話会と共催):2011年3月5日, 鳥根大学総合理工学部1号館2階第3会議室で開催, 講演2件, 懇談会および情報交換会を行った(参加者32名)。
 - 9) 岡山地区講演会(岡山地区分析技術懇談会と共催):2011年3月8日, 岡山大学理学部11講義室で開催, 講演1件, 研究紹介7件および情報交換会を行った(参加者35名)。
 - 10) 広島地区講演会(広島地区分析技術研究会と共催):2011年3月8日, 広島大学学生会館レセプションホールで開催, 一般講演3件, 研究発表5件および情報交換会を行った。(参加者55名)。

4. 講習会

第47回分析化学講習会:8月5・6日, 広島大学東広島キャンパス(東広島市)で開催, 「分析技術の最近の進歩と応用~前処理技術と計測の実際~」の主題で, 基調講演2件, 特別講演2件, 講義9件, 実習10種類および懇親会を行った(参加者53名, 講義のみ2名)。

5. セミナー

第16回中国四国支部分析化学若手セミナー:7月30日・31日, (財)高輝度光科学研究センター(兵庫県佐用郡)およびたつの市国民宿舎赤とんぼ荘(たつの市)において開催, 招待講演2件, ワークショップ1件, ショートプレゼンテーション23件および懇親会を行った(参加者46名)。

【九州支部】

支部長	山口 敏男				
次期支部長	片山 佳樹				
副支部長	神崎 亮	柳 雅之			
参与	飯盛喜代春	岩崎 正武	大賀 一也		
	大倉 洋甫	箴島 豊	鎌田 薩男	合屋周次郎	
	小林 宏	高木 誠	竹田津富次	田端 正明	
	出口 俊雄	増田 義人			
監査	下田 満哉	横下 正彦			
庶務幹事	塩田 幸生				
会計幹事	吉田 亨次				
常任幹事	井上 高教	内嶋 茂	岡上 吉広		

片山 佳樹 黒木 広明 戸田 敬 富安 卓滋
 中島憲一郎 能田 均 原田 明 原田 雅章
 松井 利郎 松田 直樹
 幹 事 安藤 功 井倉 則之 石岡 寿雄
 石黒 慎一 石川 洋哉 井原 敏博 今坂藤太郎
 今任 稔彦 伊与田憲雄 岩永 達人 内田 耕次
 内村 智博 内海 英雄 梅林 泰宏 大浦 博樹
 大木 章 大島 達也 大渡 啓介 大庭 義史
 大森 保 甲斐 雅亮 影浦 光義 加藤 祐子
 金田 隆 河津 博文 川原 正博 喜納 兼勇
 桐山 哲也 栗崎 敏 黒田 直敬 古賀 実
 財津 潔 境 幸夫 笹木 圭子 城 昭典
 宗 伸明 高瀬 孝雄 高館 明 高椋 利幸
 田口 博幸 竹中 繁織 竹原 公 立木 武
 田中 一平 谷口 功 土田 博 轟木 一義
 中嶋 直敏 中島 俊男 永瀬 誠 中園 学
 中野 幸二 中山 守雄 新留 康郎 西 敏郎
 野口 英行 馬場 由成 浜瀬 健司 原口 浩一
 肥後 盛秀 平尾 良光 平田 紀行 前田 明広
 増田 寿伸 松岡 信明 松野 康二 松本 清
 満尾 良弘 宮島 徹 村田 正治 森山 慶一
 屋形 直明 山口 政俊 山田 淳 吉塚 和治
 安田みどり 山口 英敬 横山 拓史 吉田 烈
 吉田 秀幸 吉留 俊史 吉永鐵大郎 吉村 和久
 米山 敏夫 脇田 久伸 和田 光弘

日時 平成 23 年 4 月 15 日 (金) 11 時より
 場所 五反田文化会館 (東京都品川区西五反田 1-32-2)
 参加予定者数 150 人。

② 会誌、研究報告及び資料の刊行 (定款第 5 条(1))

- 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行する。
 2011 年第 3 号～2012 年第 2 号 毎月 1 回, 5 日に発行 (各号 A4 判, 130 ページ)。発行部数 7700
- 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行する。
 第 60 巻第 3 号～第 61 巻第 2 号を毎月 1 回, 5 日に発行 (各号 A4 判, 72 ページ)。発行部数 2500
- 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行する。
 Vol. 27, No. 3～Vol.28, No. 2 を毎月 1 回, 10 日に発行 (各号 A4 判, 136 ページ)。発行部数 900
- 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行する。
 Vol. 27, No. 3～Vol. 28, No. 2 を毎月 1 回発行 (web のみによる無料公開)。
- メールマガジンを発行する。
- 「改訂六版 分析化学便覧」を出版する。
- 同上 DVD 版を出版する。
- 「試料分析シリーズ」全 15 巻を出版する。
- 60 周年記念誌を出版する。

③ 講演会、講習会及び研究会の開催 (定款第 5 条(2))

[研究発表会]

- ICAS2011 を下記のとおり行う。
 日時 平成 23 年 5 月 22 日 (日)～26 日 (木)
 場所 京都国際会議場 (京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地)
- 第 60 年会を下記のとおり行う。
 日時 平成 23 年 9 月 27 日 (火)～29 日 (木)
 場所 東京工業大学 (東京都目黒区大岡山) 参加予定者数 1300 人 演題数 800
- Separation Sciences 2011 を行う。
 日時, 場所, 参加予定者数, 演題数 未定
 [講習会] 参加予定者数: 合計 500 名
 予定テーマ
 水中の微量金属成分分析技術セミナー
 金属分析技術セミナー
 ダイオキシン類分析技術セミナー
 セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー
 土壌分析技術セミナー
 プラスチック中有害金属成分の化学分析技術セミナー
 分析化学基礎セミナー
 食品分析技術セミナー
 分析化学における不確かさ研修プログラムセミナー
 その他

④ 調査、研究及び建議 (定款第 5 条(3))

[JIS]

- 分析化学用語に係る JIS K 0211 (基礎部門) と JIS K 0214 (クロマトグラフィー部門) の改正を行う (平成 23 年度前期日本規格協会の公募による)。
 [技能試験] 参加予定試験所数: 合計 800 社
 ISO/IEC17043 に基づく分析試験所技能試験を行う。
 予定テーマ
 ダイオキシン類成分分析
 プラスチック中有害金属成分の分析
 食品成分の分析
 トレーサビリティと不確かさの理解度を確認する分析
 その他
 [標準物質]
 これまで開発してきた各種標準物質の社会への供給活動を

2. 研究発表会

- 1) 第 47 回化学関連支部合同九州大会 (共催): 7 月 10 日, 北九州国際会議場で開催。分析化学関連は依頼講演 1 件, ポスター講演 58 件, 懇親会を実施。優秀ポスター発表 6 件を「九州分析化学ポスター賞」として表彰。

- 2) 2010 年日本化学会西日本大会 (共催): 11 月 6 日～7 日, 熊本大学黒髪南キャンパスで開催。

3. 講演会

- 1) 第 23 回九州分析化学若手の会・春の講演会 (主催): 5 月 22 日, 福岡女子大学で開催。講演 4 件, 情報交換会を実施 (参加者 111 名)。
- 2) 九州支部講演会・見学会 (主催): 11 月 13 日, 講演会を福岡大学で開催。特別講演 1 件, 九州分析化学会賞受賞講演 1 件, 見学会 (株三井化学大牟田分析センター) を実施 (参加者 21 名)。

4. 講習会

- 1) 第 51 回分析化学講習会 (主催): 8 月 4～6 日, 九州大学伊都キャンパスで開催。講義 3 件, 講習 6 件, 情報交換会を実施 (受講者 延 140 名)。
- 2) 機器分析ワークショップ (主催) 講演・出展 4 社。福岡会場: 11 月 10 日, 福岡大学で開催 (参加者 40 名)。鹿児島会場 11 月 24 日, 鹿児島大学で開催 (参加者 21 名)。熊本会場: 9 月 29 日, 熊本大学で開催 (参加者 37 名)。北九州会場: 1 月 27 日, ウエルとばたで開催 (参加者 20 名)。

5. セミナー

- 1) 第 27 回九州分析化学若手の会・夏季セミナー (主催): 7 月 30 日～31 日, 雲仙みかどホテル本館で開催。招待講演 2 件, 九州分析化学奨励賞受賞講演 3 件, 模範ポスター発表 5 件, 一般ポスター発表 83 件, 情報交換会を実施。優秀ポスター発表 11 件を「九州分析化学若手賞」として表彰 (参加者 160 名)。

6. 支部ニュース

支部ニュース第 21 号 (6 月) 及び第 22 号 (2 月) を発行。

平成 23 年度事業計画書

(平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 28 日)

① 通常総会の開催 (定款第 31 条)

第 52 回通常総会を下記のとおり行う。

継続して実施する。また、在庫切れ品の補給と必要な新規標準物質の開発を行い社会への供給活動を行う。

[関連団体との協力]

- 2011年世界化学年に協力する
- 関連学協会並びに団体の講演会、講習会及び研究会の開催を共催又は協賛する。
- 学術会議協力団体としての活動を行う。
- グリーンサステイナブルケミストリーネットワークの活動に協力する。
- Division of Analytical Chemistry of the European Association for Chemical and Molecular Sciences (EuChemMS) にオブザーバーを派遣して活動を行う。
- 化学連合参加団体としての活動を行う。
- 関連団体からの要請に基づき委員を派遣して JIS/ISO などの各種規格の立案等に協力する。
- JABEE の幹事学会としての活動を行う。
[教育用 DVD]
- 現在頒布中の教育用ビデオを発展させた DVD 教材の開発のために作業を行う。

⑤ 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条(4))

- 2011年度学会賞、学会功労賞、技術功績賞、奨励賞、有功賞、「分析化学」論文賞並びに先端分析技術賞を下記のとおり表彰する。
 - 学会賞 (3名以内)
 - 学会功労賞 (5名以内)
 - 技術功績賞 (3名以内)
 - 奨励賞 (5名以内)
 - 有功賞 (50名程度)
 - 2010年「分析化学」論文賞 (1名)
 - 先端分析技術賞 (3名以内)
- 他機関による表彰および研究助成に対して会員を候補者として推薦する。

⑥ その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条(5))

- 液体クロマトグラフィー分析士初段並びに2段、液体クロマトグラフィー-質量分析法分析士初段、イオンクロマトグラフィー分析士初段の認証を行う。
- アジアの分析化学者との連携をはかるために Asian Analytical Chemistry Network のホームページを運用する。
- 本会の活動並びに新学術・技術の重要性をホームページ、各種展示、冊子の発行、記者会見、展示などを通じて広報する。
- 若手交流会の活動を次のとおり行う。
ICAS2011 (5月、京都国際会議場) また年会 (9月、東工大)、東京コンファレンス (9月、幕張) において若手企画シンポジウム・若手ポスターセッションを開催する。担当する各支部若手の会を支援する。
- 各研究懇談会の活動を次のとおり行う。
 - 1) 有機微量分析研究懇談会
委員会を2回、第78回有機微量分析研究懇談会シンポジウム (計測自動制御学会・力学量計測部会と共催、日本分析化学会東北支部、日本化学会、日本薬学会協賛、5月、米沢市 (伝国の杜 置賜文化センター)、講演会 (第60年会会期中) を開催するほか、会報12号 (2011年3月) を発行する。また本研究懇談会編の「役に立つ有機微量元素分析」その2の出版計画を進める。
 - 2) ガスクロマトグラフィー研究懇談会
例会を数回、見学会、特別講演会、講習会 (実習付) を開催する。例会の中で基礎講座を行う。地方での研究会活動を行う。セパレーションサイエンス2011に協力する。東京コンファレンスで講習会を実施する。日中韓シンポジウムを支援する。講習会用テキストを整備する。懇談会50年のアーカイブをホームページで公開する。運営委員会を隔月で開催する。
 - 3) 高分子分析研究懇談会

例会を6回、高分子分析技術講習会、第16回高分子分析討論会の開催。

- 4) X線分析研究懇談会
例会を数回、第47回X線分析討論会、X線分析講習会を開催するほか、「X線分析の進歩」を出版する。
- 5) 分析試薬研究懇談会
講演会2回 (第60年会およびホスト・ゲスト化学シンポジウムでの招待講演) ほか懇談会1回を開催する。第7回ホスト・ゲスト化学シンポジウム (広島、5月) の共催を行う。
- 6) 溶液界面研究懇談会
講演会、懇談会を各1回 (第60年会会期中) 開催するほか、通信による情報交換を行う。また、年会において界面に関するセッションを継続して開催できるよう、年会実行委員会への働きかけを行う。
- 7) 液体クロマトグラフィー研究懇談会
例会を数回、LCテクノプラザ、LC-DAYS 2011を開催する。
- 8) 化学センサー研究懇談会
国際分析化学会議 (ICAS 2011) でのセンサーセッションの開催、懇談会 (分析化学会年会期間中) を開催するほか、化学センサー・バイオセンサー関連シンポジウムなどの案内や資料を配付する。
- 9) 電気泳動分析研究懇談会
懇談会講演会を1回 (9月年会時、東京) 開催するほか、第31回キャピラリー電気泳動シンポジウム (11月、鶴岡) を開催する。また本研究懇談会編の「キャピラリー電気泳動」の出版計画を進める。
- 10) イオンクロマトグラフィー研究懇談会
第5回日中韓合同イオン分析シンポジウム (10月頃、中国・桂林)、イオンクロマトグラフィー講習会 (9月、東京コンファレンスと共催)、セパレーションサイエンス2011 (SS2011) (9月、幕張)、イオンクロマトグラフィー講演会 (9月、分析化学会第60年会と共催、東京工業大学)、中日韓分析化学シンポジウム (11月、GC、HPLC、FIA 各研究懇談会と共催、韓国・ソウル) を開催する。この他、運営委員会を3回開催する予定。また「分析化学教育用ビデオ」の内容改訂 (DVD化) とIC分析士認定試験問題作成を進める。
- 11) フローインジェクション分析研究懇談会
委員会を1回、「Journal of Flow Injection Analysis」(JFIA) 誌編集委員会を2回、講演会 (5月・ICAS 2011会期中 (京都)、7月・17th International Conference on Flow Injection Analysis (Krakow, Poland)、9月・Separation Sciences 2011 (幕張メッセ)、9月・第60年会会期中 (東工大)、11月・第49回フローインジェクション分析講演会 (愛知工大)) を開催するほか、JFIA 誌を2回 (6月、12月) 発行する。
- 12) 環境分析研究懇談会
講演会を2回 (第56年会会期中、11月)、3rd Gunma International Symposium on Chemistry and Chemical Biology (5月) を共同主催、幹事会を1回開催する。CJK シンポジウム (韓国) に参加する。また適宜メーリングリストを用いた情報交換を行う。
- 13) 表示・起源分析技術研究懇談会 (未)
講演会を3回 (7月、第59年会会期中、10月か11月)、運営委員会を2回開催する。「食品表示に関する分析技術 (仮)」の単行本の発刊を10月に行う。
- 14) レアメタル分析研究懇談会
懇談会を新たに設立して情報交換などの活動を行う。なお、キックオフミーティングを第60年会会期中に開催する。
- 15) 熱分析研究懇談会
懇談会を新たに設立して情報交換などの活動を行う。講演会を2回 (9月、第60年会会期中及び12月) 開催予定。またメーリングリストを作成し、適宜情報交換を行

う。

・支部活動を次のとおり行う。

【北海道支部】

1. 夏季研究発表会（7月）、冬季研究発表会（2月）
2. 化学教育研究協議会（11月上旬）
3. 第27回分析化学緑陰セミナー（7月）、公開セミナー（9月）、第47回氷雪セミナー（1月上旬）
4. 支部ニュースの発行（7月、12月）

【東北支部】

1. 研究発表会：みちのく分析科学シンポジウム2011、平成23年度化学系学協会東北大会、第46回秋田化学技術協会研究発表会
2. 講演会：分析化学と化学分析の青森フォーラム2011（青森地区講演会）、各地区講演会
3. 分析化学基礎技術講習会2011
4. セミナー：分離機能とセンシング機能の化学セミナー2011、第7回環境と分析化学のセミナー「みちのくセミナー」、第14回機能構造と分析化学シンポジウム、平成23年東日本分析化学若手交流会、第28回無機・分析化学コロキウム

【関東支部】

1. 講習会：第52回機器分析講習会、環境分析基礎講座を開催する。
2. 講演会：新潟地区部会研究発表会、茨城地区分析技術交流会、関東支部懇話会、新年交流会のほか、随時開催する。
3. セミナー：分析化学若手交流会のほか、随時開催する。
4. 支部ニュースの発行ほか常任幹事会で必要と認められた事項を行う。

【中部支部】

1. 研究発表会：第42回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（11月、信州大学工学部）を共催の予定。
2. 講演会：愛知・静岡・石川での地区講演会、及び訪日研究者講演会の開催を予定。

3. 講習会：第21回基礎及び最新の分析化学講習会（10月、名古屋）を開催の予定。
4. セミナー：第30回分析化学中部夏期セミナー（8月、三重）、「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第11回高山フォーラム（11月、高山市図書館）を開催の予定。

【近畿支部】

1. 講演会：近畿分析技術研究懇話会第14回講演会（3月）、支部講演会（4月、12月）を開催の予定。
2. 講習会：基礎分析化学講習会（随時）、第58回機器による分析化学講習会（7月、京都大学）を開催の予定。
3. セミナー：提案公募型事業（随時）、基礎分析化学実習（随時）、第5回平成夏期セミナー「ぶんせき秘帖」（8月）を開催の予定。
4. 支部ニュースの発行（随時）

【中国四国支部】

1. 講演会：中国四国支部分析化学講演会（3月、岡山）、岡山・広島・周南・宇部・愛媛・徳島・鳥取・島根・高知地区講演会、外国人学者講演会を随時開催の予定。
2. 講習会：第48回分析化学講習会（8月、宇部）を開催の予定。
3. セミナー：第17回中国四国支部分析化学若手セミナー（7月または8月、愛媛）を開催の予定。

【九州支部】（未）

1. 研究発表会：第47回化学関連支部合同九州大会（7月）を開催の予定。
2. 講演会：第23回春の研究講演会（5月）、第28回夏期セミナー（7月）、支部講演会・見学会（11月）のほか、機器分析ワークショップや外国人講演会を随時開催の予定。
3. 講習会：第51回分析化学講習会（8月）を開催の予定。
4. その他：地区懇話会、支部ニュースの発行などを行う予定。

以上

平成 22 年 度 会 計 報 告

貸 借 対 照 表

(平成 23 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金及び預金	71,012,713	53,034,956	17,977,757
未収金	13,516,118	12,612,442	903,676
未収会費	16,903,150	17,984,000	△ 1,080,850
未収収益	218,630	271,561	△ 52,931
棚卸資産	25,620,493	26,893,180	△ 1,272,687
一年以内回収予定長期貸付金	199,920	199,920	0
前払金	3,889,945	4,764,419	△ 874,474
仮払金	184,576	365,320	△ 180,744
流動資産合計	131,545,545	116,125,798	15,419,747
2. 固 定 資 産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	75,733,982	75,176,729	557,253
標準物質開発基金	67,251,103	67,034,512	216,591
分析技術教育基金	13,721,586	13,695,934	25,652
国際交流事業基金	14,932,959	28,839,494	△ 13,906,535
分析化学研究奨励基金	8,362,229	8,355,287	6,942
預り保証金引当預金	11,000,000	11,000,000	0
支部研究懇談会特定預金	31,052,520	30,934,312	118,208
特定資産合計	222,054,379	235,036,268	△ 12,981,889
(3) その他の固定資産			
建物	17,805,724	18,633,998	△ 828,274
器具備品	719,230	679,472	39,758
土地	49,172,915	49,172,915	0
商標	472,646	547,486	△ 74,840
ソフトウェア	6,736,452	9,285,283	△ 2,548,831
電話加入権	28,000	28,000	0
敷金	100,000	100,000	0
長期貸付金	3,327,240	3,527,160	△ 199,920
その他の固定資産合計	78,362,207	81,974,314	△ 3,612,107
固定資産合計	310,416,586	327,010,582	△ 16,593,996
資 産 合 計	441,962,131	443,136,380	△ 1,174,249

貸 借 対 照 表

(平成 23 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	8,140,569	5,754,828	2,385,741
未払費用	4,526,576	4,973,660	△ 447,084
前受金	5,375,000	6,650,000	△ 1,275,000
前受会費	14,433,700	14,641,033	△ 207,333
前受購読料金	1,676,788	1,622,682	54,106
預り金	1,268,561	2,186,617	△ 918,056
仮受金	289,665	185,165	104,500
流動負債合計	35,710,859	36,013,985	△ 303,126
2. 固定負債			
退職給付引当金	94,864,207	90,214,177	4,650,030
預り保証金	11,000,000	11,000,000	0
固定負債合計	105,864,207	101,214,177	4,650,030
負債合計	141,575,066	137,228,162	4,346,904
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	971,783	0	971,783
寄付金	11,988,200	0	11,988,200
指定正味財産合計	12,959,983	0	12,959,983
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	0
2. 一般正味財産	287,427,082	305,908,218	△ 18,481,136
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(135,320,397)	(148,859,539)	△ 13,539,142
正味財産合計	300,387,065	305,908,218	△ 5,521,153
負債及び正味財産合計	441,962,131	443,136,380	△ 1,174,249

正味財産増減計算書

(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
一般正味財産増減の部			
I 経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 基本財産運用益	53,900	53,900	0
(2) 特定資産運用益	722,888	1,570,970	△ 848,082
(3) 受取入金会金	209,000	230,000	△ 21,000
(4) 受取会費	98,009,996	103,432,778	△ 5,422,782
(5) 受取購読料	10,993,684	12,043,375	△ 1,049,691
(6) 事業収益	171,696,986	168,839,220	2,857,766
(7) 受取補助金等	9,276,817	14,897,700	△ 5,620,883
(8) 雑収益	1,730,411	912,505	817,906
経常収益計	292,693,682	301,980,448	△ 9,286,766
2. 経常費用			
(1) 一般事業費	247,884,656	268,322,316	△ 20,437,660
(2) 出版事業費	118,419,875	119,685,480	△ 1,265,605
(3) 出版事業費	65,680,246	75,160,030	△ 9,479,784
(4) 受託等事業費	1,679,670	1,687,380	△ 7,710
(5) 会議費	1,470,034	2,237,103	△ 767,069
(6) ICAS2011準備費	0	2,817,648	△ 2,817,648
(7) 人件費	60,634,831	66,734,675	△ 6,099,844
(8) 管理費	63,255,662	72,665,969	△ 9,410,307
(9) 人件費	21,133,416	31,015,753	△ 9,882,337
(10) 会議費	14,878,566	14,255,791	622,775
(11) 通信運搬費	2,079,288	2,340,037	△ 260,749
(12) 印刷費	1,148,341	2,490,789	△ 1,342,448
(13) 減価償却費	1,182,016	1,206,985	△ 24,969
(14) 商標権償却	74,840	74,840	0
(15) 備品・消耗品費	5,162,810	4,259,996	902,814
(16) 旅費交通費	2,817,410	1,116,050	1,701,360
(17) 共益補修費	1,707,144	1,676,400	30,744
(18) 水道光熱費	368,958	379,242	△ 10,284
(19) 事務所整備費	0	63,000	△ 63,000
(20) 会計監査費	2,205,000	1,890,000	315,000
(21) HP維持作製費	1,224,904	1,691,816	△ 466,912
(22) 会員管理費	715,468	1,177,502	△ 462,034
(23) 支払負担金	3,003,926	3,000,502	3,424
(24) 事務委託費	2,474,798	2,910,217	△ 435,419
(25) 租税公課	2,532,100	2,307,300	224,800
(26) 雑費	546,677	809,749	△ 263,072
経常費用計	311,140,318	340,988,285	△ 29,847,967
当期経常増減額	△ 18,446,636	△ 39,007,837	20,561,201
II 経常外増減の部			
1. 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
2. 経常外費用			
(1) 固定資産廃棄損	34,500	0	34,500
経常外費用計	34,500	0	34,500
当期経常外増減額	△ 34,500	0	△ 34,500
当期一般正味財産増減額	△ 18,481,136	△ 39,007,837	20,526,701
一般正味財産期首残高	305,908,218	344,916,055	△ 39,007,837
一般正味財産期末残高	287,427,082	305,908,218	△ 18,481,136
指定正味財産増減の部			
(1) 受取補助金	7,600,000	0	7,600,000
(2) 受取寄付金	11,988,200	0	11,988,200
(3) 一般正味財産への振替額	6,628,217	0	6,628,217
当期指定正味残高増減額	26,216,417	0	26,216,417
指定正味残高期首残高	0	0	0
指定正味残高期末残高	26,216,417	0	26,216,417
正味財産期末残高	300,387,065	305,908,218	△ 5,521,153

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
償却原価法を採用している。
 - (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品の評価は先入先出法による原価法を採用している。
 - (3) 固定資産の減価償却方法
有形固定資産
建物…定額法を採用している。(ただし、平成10年3月以前に取得した建物については定率法を採用している。)
器具備品…定率法を採用している。
無形固定資産
ソフトウェア・商標権…定額法を採用している。
 - (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金…職員の退職給与の支給に備えるため、退職金支給規程に基づき期末自己都合要支給額に相当する金額を計上している。
 - (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。
2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	75,176,729	60,590,253	60,033,000	75,733,982
標準物質開発基金	67,034,512	511,277	294,686	67,251,103
分析技術教育基金	13,695,934	25,652	0	13,721,586
国際交流事業基金	28,839,494	11,243,465	25,150,000	14,932,959
分析化学研究奨励基金	8,355,287	440,610	433,668	8,362,229
預り保証金引当預金	11,000,000	0	0	11,000,000
支部研究懇談会特定預金	30,934,312	1,727,378	1,609,170	31,052,520
小計	235,036,268	74,538,635	87,520,524	222,054,379
合計	245,036,268	74,538,635	87,520,524	232,054,379

財務諸表に対する注記

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	—	(10,000,000)	—
小計	10,000,000	—	(10,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当資産	75,733,982	—	—	(75,733,982)
標準物質開発基金	67,251,103	—	(67,251,103)	—
分析技術教育基金	13,721,586	—	(13,721,586)	—
国際交流事業基金	14,932,959	—	(14,932,959)	—
分析化学研究奨励基金	8,362,229	—	(8,362,229)	—
預り保証金引当預金	11,000,000	—	—	(11,000,000)
支部研究懇談会特定預金	31,052,520	—	(31,052,520)	—
小計	222,054,379	—	(135,320,397)	(86,733,982)
合計	232,054,379	—	(145,320,397)	(86,733,982)

4. 担保に供している資産

該当なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	62,107,932	44,302,208	17,805,724
器具備品	5,903,813	5,184,583	719,230
合計	68,011,745	49,486,791	18,524,954

6. 保証債務等の偶発債務

該当なし

7. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び時価との差額

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び時価との差額は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	時価との差額
第88回利付国庫債券(5年)	60,147,000	60,054,000	△ 93,000
第64回利付国庫債券(5年)	30,416,872	30,513,000	96,128
合計	90,563,872	90,567,000	3,128

8. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交 付 者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
国庫補助金	日本学術振興会	0	7,600,000	6,628,217	971,783	指定正味財産
民間補助金	日本分析機器工業会	0	900,000	900,000	0	
民間補助金	化学物質評価研究機構	0	450,000	450,000	0	
民間補助金	フロンティアラボ(株)	0	200,000	200,000	0	
寄付金						
寄付金	個人等	0	11,988,200	0	11,988,200	指定正味財産
合計	計	0	21,138,200	8,178,217	12,959,983	

財務諸表に対する注記

9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額 補助事業執行による振替額	6,628,217
合 計	6,628,217

10. 税効果会計関係の注記

- (1) 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

(単位：円)

未 払 賞 与	155,500
退 職 給 付 引 当 金	3,204,489
繰 越 欠 損 金	37,047,222
繰 延 税 金 資 産 小 計	40,407,211
評 価 性 引 当 額	△ 40,407,211
繰 延 税 金 資 産 合 計	0

- (2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位：円)

	非収益事業	収益事業	合 計
税引前当期利益一般正味財産増減額 (A)	△ 16,254,222	△ 2,156,914	△ 18,411,136
寄付金損金算入限度額 (B)	0	0	0
小 計 (C)=(A)+(B)	△ 16,254,222	△ 2,156,914	△ 18,411,136
法人税, 住民税及び事業税 (D)	0	70,000	70,000
法人税等調整額 (E)	0	0	0
過年度法人税等調整額 (F)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (A)-(D)-(E)-(F)	△ 16,254,222	△ 2,226,914	△ 18,481,136

- (3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目の内訳
 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異については、税引前当期一般正味財産増減額がマイナスであるため記載しない。

11. 関連当事者との取引の内容
 該当なし

12. 重要な後発事象
 該当なし

財 産 目 録

(平成 23 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	金 額
I 資 産 の 部	
1. 流 動 資 産	
現金	1,501,799
普通預金	3,857,649
	1,332,342
	4,607,001
	7,155,081
	2,089,137
	2,341,984
	1,740,366
	2,956,943
	1,983,928
	11,655,015
	1,412,800
	1,238,661
	854,664
	450,924
	1,272,958
	500,420
	289,378
	130,087
	14,410,260
郵便振替	3,641,552
	396,900
	1,000
郵便貯金	87,772
	533,491
	1,695,646
定期預金	1,300,000
	1,574,955
未収金	7,901,663
売掛金	5,614,455
未収会費	16,903,150
未収収益	218,630
棚卸資産	25,496,583
貯蔵品	123,910
一年以内回収予定長期貸付金	199,920
前払金	3,889,945
仮払金	184,576
流 動 資 産 合 計	131,545,545
2. 固 定 資 産	
(1) 基 本 財 産	
定期預金	10,000,000
基 本 財 産 合 計	10,000,000
(2) 特 定 資 産	
退職給付引当資産	75,733,982
標準物質開発基金	67,251,103
分析技術教育基金	13,721,586
国際交流事業基金	14,932,959
分析化学研究奨励基金	8,362,229
預り保証金引当預金	11,000,000
支部研究懇談会特定預金	31,052,520
特 定 資 産 合 計	222,054,379

財 産 目 録

(平成 23 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	金 額		
(3) その他の固定資産			
建物 事務所	17,805,724		
器具備品 コンパクトラック	18,820		
303 号室エアコン	130,775		
間仕切りアコーデオン	4,460		
リコーリコピーボード	7,284		
304 号室マルチエアコン	17,503		
液晶プロジェクター ep elp730	39,152		
308 号室エアコン	27,887		
エプソン emp-745	20,931		
304 号室エアコン	158,275		
305 号室エアコン	294,143		
土地	49,172,915		
商標権	472,646		
ソフトウェア	6,736,452		
電話加入権 7 回線	28,000		
敷金 近畿支部	100,000		
長期貸付金 職員、住宅購入資金	3,327,240		
その他の固定資産合計	78,362,207		
固定資産合計		310,416,586	
資産合計			441,962,131
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 品川税務署他 消費税、社保料等	8,140,569		
未払費用 賞与引当繰入額	4,526,576		
前受金 技能試験次年度収益分、次年度受講料	5,375,000		
前受会費 会費未経過分	14,433,700		
前受購読料 「分析化学」ほか購読料	1,676,788		
預り金 品川社会保険事務所ほか 2 月分法定福利費他	1,268,561		
仮受金	289,665		
流動負債合計		35,710,859	
2. 固定負債			
退職給付引当金	94,864,207		
預り保証金 広告料受入保証金ほか	11,000,000		
固定負債合計		105,864,207	
負債合計			141,575,066
正味財産			300,387,065

収 支 計 算 書

(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	50,000	53,900	3,900	
2. 特定資産運用収入	965,000	722,888	△ 242,112	
3. 入金収入	200,000	209,000	9,000	
4. 会費収入	101,810,000	98,009,996	△ 3,800,004	
5. 購読料収入	12,650,000	10,993,684	△ 1,656,316	
6. 事業収入	170,593,000	171,696,986	1,103,986	
7. 補助金等収入	11,584,000	10,248,600	△ 1,335,400	
8. 寄付金収入	0	11,988,200	11,988,200	60周年
9. 雑収入	460,000	334,122	△ 125,878	
10. 長期貸付金回収額	210,000	199,920	△ 10,080	
事業活動収入計	298,522,000	304,457,296	5,935,296	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	252,354,000	237,773,846	△ 14,580,154	
(1) 一般事業費支出	111,577,000	113,004,632	1,427,632	年会, 討論会, 社会貢献事業ほか
(2) 出版事業費支出	73,313,000	65,085,981	△ 8,227,019	
(3) 受託事業費支出	1,500,000	1,679,670	179,670	
(4) 会議費支出	3,900,000	1,545,409	△ 2,354,591	
(5) 助成金支出	200,000	0	△ 200,000	
(6) ICAS2011準備費	2,980,000	0	△ 2,980,000	
(7) 人件費	58,884,000	56,458,154	△ 2,425,846	
2. 管理費支出	62,972,000	61,498,168	△ 1,473,832	
(1) 人件費	21,960,000	20,660,063	△ 1,299,937	
(2) 会議費	13,081,000	14,803,191	1,722,191	
(3) 通信運搬費	2,461,000	2,143,868	△ 317,132	
(4) 印刷費	2,296,000	1,148,341	△ 1,147,659	
(5) 備品・消耗品費	4,965,000	5,146,320	181,320	
(6) 旅費交通費	1,887,000	2,817,410	930,410	
(7) 共益補修費	1,700,000	1,707,144	7,144	
(8) 水道光熱費	430,000	368,958	△ 61,042	
(9) 事務所整備費	100,000	0	△ 100,000	
(10) 会計監査費	2,415,000	2,205,000	△ 210,000	
(11) 職員研修費	30,000	0	△ 30,000	
(12) 会員管理費	1,200,000	715,468	△ 484,532	会費請求業務
(13) HP維持作製費	920,000	1,224,904	304,904	
(14) 負担金支出	2,972,000	3,003,926	31,926	
(15) 事務委託費	2,748,000	2,474,798	△ 273,202	
(16) 租税公課	2,000,000	2,532,100	532,100	消費税ほか
(17) 公益法人申請準備費	500,000	0	△ 500,000	
(18) 雑費	1,307,000	546,677	△ 760,323	
事業活動支出計	315,326,000	299,272,014	△ 16,053,986	
事業活動収支差額	△ 16,804,000	5,185,282	21,989,282	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定資産取崩収入	10,425,000	87,564,861	77,139,861	
投資活動収入計	10,425,000	87,564,861	77,139,861	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	300,000	73,186,683	72,886,683	
2. 固定資産取得支出	1,000,000	2,567,900	1,567,900	
投資活動支出計	1,300,000	75,754,583	74,454,583	
投資活動収支差額	9,125,000	11,810,278	2,685,278	
III 予備費支出	181,000	0	△ 181,000	
当期収支差額	△ 7,860,000	16,995,560	24,855,560	
前期繰越収支差額	52,870,000	53,218,633	348,633	
次期繰越収支差額	45,010,000	70,214,193	25,204,193	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、未収会費、売掛金、未収収益、一年以内回収予定長期貸付金、前払金、仮払金、未払金、未払費用、前受金、前受会費、前受購読料、預り金及び仮受金を含めている。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	53,034,956	71,012,713
未収金等	23,297,525	24,804,813
売掛金	7,298,917	5,614,455
未収収益	271,561	218,630
一年以内回収予定長期貸付金	199,920	199,920
前払金	4,764,419	3,889,945
仮払金	365,320	184,576
合 計	89,232,618	105,925,052
未払金等	10,728,488	12,667,145
前受金等	22,913,715	21,485,488
預り金	2,186,617	1,268,561
仮受金	185,165	289,665
合 計	36,013,985	35,710,859
次期繰越収支差額	53,218,633	70,214,193

3. 科目間の流用及び予備費の使用について

- (1) 科目間の流用
該当なし
- (2) 予備費の使用
該当なし

平成 23 年 度 収 支 予 算 書

(平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	50,000	50,000	0	
2. 特定資産運用収入	965,000	965,000	0	特定預金利息
3. 会 費 収 入	98,855,000	101,810,000	△ 2,955,000	
4. 購 読 料 収 入	11,300,000	12,650,000	△ 1,350,000	
5. 入 会 金 収 入	200,000	200,000	0	
6. 事 業 収 入	157,497,000	170,593,000	△ 13,096,000	
7. 補 助 金 収 入	10,384,000	11,584,000	△ 1,200,000	年会，討論会，社会貢献事業ほか
8. 寄 付 金 収 入	1,000,000	0	1,000,000	科研費，受託収入ほか
9. 雑 収 入	505,000	460,000	45,000	
10. 長期貸付金回収額	210,000	210,000	0	
11. 他会計から繰入金収入	20,000,000	0	20,000,000	
事業活動収入計	300,966,000	298,522,000	2,444,000	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	222,032,000	252,804,000	△ 30,772,000	
(1) 一般事業費支出	96,710,000	111,577,000	△ 14,867,000	
(2) 出版事業費支出	63,802,000	73,313,000	△ 9,511,000	学会誌の出版
(3) 受託事業費支出	1,500,000	1,500,000	0	
(4) 会議費支出	2,620,000	4,350,000	△ 1,730,000	
(5) 助成金支出	100,000	200,000	△ 100,000	
(6) ICAS 関連委員会費	0	2,980,000	△ 2,980,000	
(7) 人 件 費	57,300,000	58,884,000	△ 1,584,000	
2. 管理費支出	64,035,000	62,522,000	1,513,000	
(1) 人 件 費	20,610,000	21,960,000	△ 1,350,000	
(2) 会 議 費	13,351,000	12,631,000	720,000	総会，理事会費等
(3) 通信運搬費	2,693,000	2,461,000	232,000	
(4) 印刷費	2,026,000	2,296,000	△ 270,000	
(5) 備品・消耗品費	5,776,000	4,965,000	811,000	事務消耗品，リース料
(6) 旅費交通費	1,807,000	1,887,000	△ 80,000	
(7) 共益補修費	1,700,000	1,700,000	0	
(8) 水道光熱費	400,000	430,000	△ 30,000	
(9) 事務所整備費	100,000	100,000	0	
(10) 会計監査費	2,415,000	2,415,000	0	
(11) 職員表彰費	230,000	0	230,000	
(12) 職員研修費	30,000	30,000	0	
(13) 会員管理費	2,600,000	1,200,000	1,400,000	
(14) HP 製作管理費	1,170,000	920,000	250,000	
(15) 負担金支出	2,840,000	2,972,000	△ 132,000	諸手数料
(16) 事務委託費	2,289,000	2,748,000	△ 459,000	
(17) 租 税 公 課	2,000,000	2,000,000	0	消費税
(18) 公益法人移行準備費	1,000,000	500,000	500,000	
(19) 雑 費	998,000	1,307,000	△ 309,000	
事業活動支出計	286,067,000	315,326,000	△ 29,259,000	
事業活動収支差額	14,899,000	△ 16,804,000	31,703,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定資産取崩収入	5,855,000	10,425,000	△ 4,570,000	
投資活動収入計	5,855,000	10,425,000	△ 4,570,000	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	0	300,000	△ 300,000	
2. 固定資産取得支出	1,000,000	1,000,000	0	
投資活動支出計	1,000,000	1,300,000	△ 300,000	
投資活動収支差額	4,855,000	9,125,000	△ 4,270,000	
III 予備費支出	133,000	181,000	△ 48,000	
当期収支差額	19,621,000	△ 7,860,000	27,481,000	
前期繰越収支差額	70,214,000	53,219,000	16,995,000	
次期繰越収支差額	89,835,000	45,359,000	44,476,000	

第 52 回通常総会

開催日と場所

4月15日(金)11時より、東京都品川区西五反田1丁目32番2号、五反田文化会館第一会議室において開催した。

出席者

定款第31条の構成員総数144名中、出席者は中村会長ほか106名あり、定款第36条の定足数に達し、本総会は成立した。

議長

定款第33条により、中村会長が議長を務め、議事録署名人(菊地正、中村幸二)を指名して、次の審議を行った。

議事の経過と結果

第1号議案 2010年度事業報告及び決算報告承認の件

加藤副会長より原案(本号会報参照)について説明があり、続いて脇田監事より会計監査について証言があった。

第2号議案 2011年度役員選任の件

尾崎副会長より、役員等候補者選考委員会において役員22名(5号会報参照)が選考された旨報告があった。

第3号議案 2011年度事業計画及び収支予算承認の件

尾崎副会長より原案(本号会報参照)について説明があった。

第4号議案 名誉会員推薦の件

中村会長及び加藤副会長より定款第8条に基づき、中村洋、Richard N. Zare、下村脩、Ben-Li Huang、保田和雄、辻章夫、木村優、中川照眞、松井正和各氏を名誉会員に推薦したい旨説明があった。

第5号議案 永年会員推薦の件

中村会長より定款第9条に基づき、保母敏行、高田芳矩、清水慶子、大栗直毅、津田孝雄、坂元隼雄、功刀彰、内海昭、河村日佐男、及川紀久雄、蟻川芳子、本浄高治、塩見紘一、篠原録郎、仲町秀雄、増田義人、広瀬一豊、三井利幸、南茂夫、岩田志郎、池田長生、荻野博、土器屋由紀子、山内脩の24氏を永年会員に推薦したい旨説明があった。

以上の議案について一括審議を行った結果、それぞれ満場一致で可決し、第52回通常総会を閉会した。

2011年度第2回理事会

4月15日(金)13時30分より五反田文化会館第一会議室において開催(出席者:中村会長ほか18名、なお、2011年度役員が同席した)。

承認事項(審議事項含む):前回理事会議事録の確認報告、第1回本部支部連絡会議の開催及び議案の件、福島原子力発電所事故への学会としての対応、ICASにおける本会ブースの件、2011年度理事職務分担・各種委員会委員委嘱の件、2011年度理事会開催の日取り及び定例議題の件、2011年度理事会への申し送り事項の件、2011年度代議員の件、支部役員一部変更の件、2010年度本部会計報告の件、職員に関する

件、年会・分析化学討論会開催依頼の件、第60年会開催期日並びに会場の件、東京コンファレンス2011の件、「分析化学」編集委員追加委嘱の件、平成23年度JIS原案共同作成契約の締結に関する件、協議会委員長の委嘱の件、会員入・退会の件、会員管理システム更新の件、関係委員会の再構築と協議会の件、他学協会からの共催等名義申請の件、その他の各件。なお、特別会員:(株)静環検査センター、イカリ消毒(株)、正・学生会員(下表)の入会が承認された。

新入会の正会員・学生会員

氏名	所属機関	紹介者
【東北支部】		
今野 貢	秋田十条化成(株)	(阿部 健一)
【関東支部】		
飯塚 淳	メルテックス(株)	(阿部 健一)
小川 孝夫	(株)ヤクルト本社湘南化粧品工場	(阿部 健一)
服部 豊彦	リケンテクノス(株)	(阿部 健一)
日向寺佐和	日本配合飼料(株)中央研究所	(阿部 健一)
三好 学	東邦化学工業(株)	(阿部 健一)
山内 富夫	J-オイルミルズ	(阿部 健一)
【中部支部】		
小川 数馬	金沢大学薬学部	(阿部 健一)
河相 勝彦	大日精化工業(株)	(阿部 健一)
北村 陽二	金沢大学	(阿部 健一)
鈴木 直亮	興和(株)	(阿部 健一)
東口 光晴	旭化成(株)	(松野 信也)
本多晋一郎	大日精化工業(株)	(阿部 健一)
【近畿支部】		
荻本 浩三	(株)島津製作所	(三上 博久)
勝木裕一朗	サントリービジネスエキスパート(株)	(小村 啓)
山口 美和	(株)ソーマ	(高橋 一弘)
【九州支部】		
中武 貞文	鹿児島大学	(阿部 健一)

名誉会員 高木 誠、正会員 奥 正興両氏逝去の報に接しました。本会はこちらに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

東日本大震災に際しての日本分析化学会の対応

——日本分析化学会会員の皆様へ——

去る3月11日に発生した東日本大震災により被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げます。被災された東北支部および関東支部の会員の皆様への支援はもとより、未曾有の大災害からの日本社会の復興に貢献すべく、日本分析化学会としても取りうるあらゆる活動を行ってまいりたいと考えております。これに対応することを目的として、常置委員会として危機管理委員会を新たに設置し、まず震災対応ワーキンググループを4月15日の理事会において発足させました。今後、本会ホームページ上でその活動をご報告するとともに、会員の皆様へのお願いを発信してまいりますので、なにとぞご協力をお願い申し上げます。

2011年5月20日

日本分析化学会会長 中村 洋